

伝える力を付けるための学校放送番組の活用

浜松市立豊岡小学校 菊地 寛

1. 子どもの実態と「付けたい生きる力」

本校の児童は、真面目に何事を一生懸命取り組もうとする児童が多い。一方で、自分の考えや思いを他の人にうまく伝えられない児童が少なくない。それは、コミュニケーション力不足がその原因だと考えられる。人前で話をするのが恥ずかしかったり苦手に思ったり、自分の考えを適切な言葉を使ってまとめることができない現状にある。

そこで、積極的にコミュニケーションをとる場を設定し、自分の思いを自分の言葉で表現する力を身に付けさせたいと考えた。伝える必然性を子どもたちが理解した上で、相手意識を持たせた学習活動を行うことが大切だと考えた。

2. 番組の解釈

NHK 学校放送番組「伝える極意」を活用し、実践を行った。番組では、子どもたちが達人のアドバイスを基にポイントをおさえながら準備をし、相手を意識した伝える活動を行う。番組内冒頭でうまくいかないところが学級の子どもにも共感でき、子どもたちと同じ目線にたったもので理解しやすいと考えられる。

3. 実践

① 5年国語「きいて、きいてきいてみよう」(光村図書)、②「1分間スピーチ」

(1) 実践のウリと実践の構想

2つの実践ともに、まず子どもたちに失敗体験をさせる。その後、番組視聴をして改善していくことにした。番組とほぼ同じ手順を踏ませるようにした。

番組視聴後は、授業内容で生かすだけでなく、他教科でも伝える活動ができるように掲示などで意識化をした。



(2) 内容

① 国語「きいて、きいてきいてみよう」

単元のねらい	・ 目的に照らして、必要な内容は何かをあらかじめ考えている。(話・聞) ・ 聞いた内容を組み合わせて、つながりの言葉を構成している。(話・聞) ・ 話し言葉を記録し、再構成して発表している。(言)	
児童の活動	評価	時間
1 3人1組で友達のことについてインタビュー活動をする。	・ 学習の見通しをもち、目的や状況に応じた「きく」ことについて考えている。(関)	1
2 番組を基にして、インタビュー活動の留意点を考える。	・ インタビューのときの尋ね方・話し方、記録の取り方について理解する。(話・聞)	1
3 準備したことを基にして、インタビュー活動をする。	・ 話しての応答に合わせて質問を変えながら尋ねたり、質問に答える。(話・聞)	1
4 インタビュー活動を振り返る。	・ 「きく」ということについてまとめることができる。(話・聞)	1

学習内容は、3人1グループになって、話し手・聞き手・記録に役割を分担し、お互いにインタビューをするというものである。ここでのねらいは、質問に対して聞き手が意図を組んで答えることができること、また、簡単に記録することができることである。

第1時では、今までの経験を基にインタビュー活動を行ったが、子どもたちにとっては予想以上に難しかったようである。何がうまくいかなかったのか考えさせたところ、「意味が分からない質問があった」「質問と違う答えが返ってきた」など子どもたちなりにその原因を考えることができた。しかし、改善策は考えつくことができなかった。そこで、デジタル教科書にあるインタビューを説明する動画を視聴した。小学生が出演しているがあまりにも上手にこなしており、子どもたちの反応はほとんどなかった。一方、視聴させた「伝える極意」では、達人によりだんだん上手になっていく構成であり、インタビューのポイントが番組の中でテロップ表示され、番組最後でもう一度まとめている。子どもたちにとって分かりやすく、聞くだけでは理解しにくい子どもにとっても、理解を助けた。

番組の視聴した後、子どもたちとインタビューのポイントを確認した。それを画用紙に書き、常に掲示しておいた。

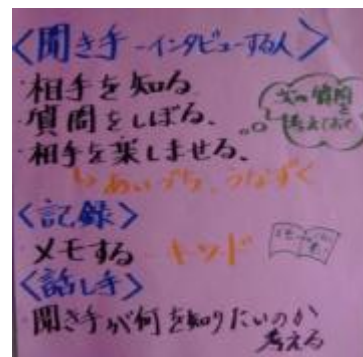


写真2 ポイントを書いた掲示

② 1 分間スピーチ

朝の会で4月から2人ずつ「1分間スピーチ」を行ってきた。自分の思いや意見を伝える力を付けさせるためである。しかし、人前で話すことが苦手な子が多く、一言だけ話をしたり、恥ずかしくメモだけを見て話したりする子が多い状況であった。

6月に番組の視聴をした。「1分間スピーチ」をやり始めて、全員が3通り程度やり終え、話す頃が慣れた頃に視聴をすることにした。実際にスピーチをしてうまくいかない経験をしつつ、人前で話すことにも少しずつ慣れた時期に視聴をして、スピーチについて学ぶのがよいと考えたからである

4. 子どもの変容

番組の視聴により、子どもたちは変化した。相手の意図や気持ちを考えてインタビューをした。それは、準備段階からよく分かった。質問内容について、事前に相手に予備調査を行い、相手が答えやすいような質問を考える子が増えたのである。実際に、インタビュー活動では、質問を聞いて何を答えてほしいのか考えながら答えていた。聞き手の方も答えを聞き、臨機応変に質問内容を変えることをしていた。記録者もキーワードだけをメモすることで、大事なことを落とさずメモをすることができた。これは、他の授業でも友達や教師の話のキーワードだけをノートにメモするようになってきた。

「1分間スピーチ」では、番組でも取り上げられた「イメージの花火」のワークシートを使ってスピーチの話題を広げながら、その中で何について話すのか2つに絞り込むことができた。このワークシートを使い、話す題材を集めることができた。

また、話し方もパターンにはめることで、どの子もスピーチの基本が分かり、話すことができるようになった。その後も、継続してこのワークシートを使うことにした。また、2学期後半からは、ワークシートなしでもスピーチの内容をふくらませることができるようになってきた。

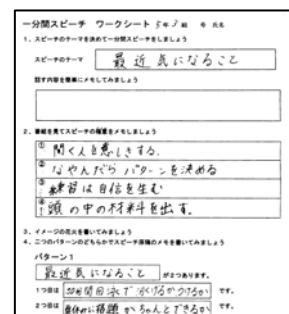


図1 ワークシート